

会 議 録	令和4年9月6日作成	令和8年3月末日廃棄
会議名	京都府右京警察署協議会（令和4年度第2回）	
開催日	令和4年9月6日（火曜日）	
時 間	午後3時から午後4時42分までの間（102分）	
場 所	京都府右京警察署道場	
出席者	卯瀧会長、東副会長、石田委員、太田委員、田中委員、中下委員、樋口委員、吉岡委員、吉田（佳）委員、ライト委員 （欠席 芦田委員、内藤委員、吉田（宗）委員） 計10人	
	署長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長代理、交通課長、広聴相談係長 計7人	
諮 問 事 項	1 犯罪情勢と犯罪抑止対策について 2 山岳遭難防止対策と京北地域の河川不法投棄対策について 3 交通事故発生状況と対策について	
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 警務課長 2 署長挨拶 3 答申に対する取組状況 （特殊詐欺の効果的な広報啓発により未然防止に努めてほしい） <b>【警察】</b> 水際対策として詐欺の予兆電話を認知した際は、パトカーなどでマイク広報を行っている。 被害者の多くが高齢者であることを考慮し、高齢者に対する効果的な広報活動を推進している。 その一つの例が巡回連絡時に防犯指導を行うことである。警察官が高齢者宅を訪問し、広報チラシやクリアファイルを配布し注意喚起を行っている。このチラシやクリアファイルは、管内にある嵯峨美術大学の学生に、府民に分かりやすいイラストを募集し、多くの作品の中から効果的な作品を選考して作成した。 これ以外にも防犯メールやSNSにより、被害防止の情報発信を行っているが、高齢者宅には1軒1軒回る防犯指導を進めている。 <b>【委員】</b> 継続的な対応をお願いする。	

## (1) 諮問事項説明

犯罪情勢と犯罪抑止対策について～生活安全課長

【委員】西院駅付近の放置自転車は、以前と比べ様変わりした。飲食店や大型家電販売店周辺の路上には多くの自転車が駐輪されており、駐輪場の設置に多くの苦労があったと聞いた。

【委員】駐輪場対策のほかに、個人宅を1軒1軒回り、自転車に鍵を掛ける指導を行った。家の前に無施錠で駐輪していることがあり、防犯推進委員と「玄関内に入れた時以外はロックしてください。」と声掛けをしたこともあった。今後も地道に活動を続けたい。

【委員】自転車を駐輪場に止めただけで安心している人がいる。自分の自転車をロックせず、ゼロロック状態で離れている。駐輪場が増えたが、ロックしていなければ被害に遭う。

【委員】児童虐待やDV被害が増えているのは、コロナにより在宅ワークが増え、父親が家にいる機会が増えたからと聞くことがある。

【委員】児童相談所にも、多くの相談が入っていると聞く。

児童虐待やDV被害に対し、区役所や保健福祉センターでは特効薬的な対策はない。

在宅ワークを取り入れる企業は、今後も増えると予想される。

【警察】家庭内の事象なので、事前の注意や抑止は難しい。

警察が認知すれば、児童相談所に通告することになるが、同じ家庭において繰り返し通告していることもある。

児童虐待には、暴力などの身体的虐待のほか、子どもの前でケンカすることなどにより心理的な傷を負わせる心理的虐待がある。

【委員】誰が警察に通報するのか。

【警察】近所の方や子ども自身からの通報もある。

【委員】救急隊が出動した際、児童虐待が疑われる時には、警察に通報するなど関係機関と連携している。

【委員】小学校は、児童虐待を認知すれば待ったなしの対応をする。

子どもの健康、安全、命を守っている。家庭の状況を踏まえ、通学時に聞き取り、見取りを行い、身体の変化を確認している。

また、カウンセラーや児童相談所とも連携している。

【委員】小学校では、GIGAスクール構想に取り組んでおり、子ども1人にタブレット1台が整備されている。緊急事態宣言中など登校できない時は、このタブレットでオンライン通話し、午前9時に全員揃って挨拶することも行った。

コロナなどの理由により欠席した子どもには、教師が自宅に課題を

会 議  
内 容

届け、子どもの顔を見ることにも取り組んでいる。

つながることによって、子どもの安全を確認している。

【委員】虐待は大きな問題であることから、今後も連携してほしい。

【委員】タブレットなどハイテクを駆使し、子どもの状況が確認できれば良いのではないか。

【委員】子どもの健全育成を阻害してはいけない。わが子に対する虐待は心が痛む。この場で結論は難しいが意識していきたい。

(2) 諮問事項説明

山岳遭難防止対策と京北地域の河川不法投棄対策について～地域課長

【委員】毎月第四土曜、今では廃校となった旧京北第一小学校において、テレワークの拠点と地域との交流を図る事業を行っており、その集まりの中で、地域住民と共に河川の清掃を行った。

【委員】幼い頃泳いでいた河川が、いつの間にかキャンプ場になり、地元住民が利用しにくい、他人に注意しにくい状況になっている。

また、投棄されたゴミの回収は自治会が回収するなど、問題も多い。

【委員】コロナによりレジャー施設などが立入禁止となった時には、林道や私有地でバーベキューをするなどマナーの悪い者もいた。

【委員】今回右京署の取組を知り、改めて「ゴミは持ち帰る。」という地道な声掛けが必要だと思った。引き続き警察や行政が連携し、レジャー客に対する不法投棄防止に取り組んでほしい。

【委員】不法投棄を放置しておく、ゴミを捨てても良いと思い、更にゴミを不法投棄する者が出る。私有地や山中に不法投棄され、環境悪化となる。

【委員】右京署の良い取組が何回もテレビで紹介され、喜んでいる。何か工夫しているのか。

【警察】右京区は嵐山や愛宕山など地域的な要素もあるが、地域住民の方と合同で実施するなど、工夫を凝らしたイベントを企画している。

【委員】警察は刑法犯だけ対応していると思っていたが、DV、虐待、ゴミの問題まで多岐にわたる対応していることを知った。

【委員】社会が複雑化し、警察の対応も広範囲にわたると思うが、将来を担う子どものための警察活動をお願いします。

(3) 諮問事項説明

交通事故発生状況と対策について～交通課長

【委員】子どもに対する交通ルールの指導が、まだまだ必要だと思う。

歩行者信号の青色点滅時に、「急いで渡って。」と声掛けをしていると思うが、これは誤りである。

点滅していれば、渡り始めてはいけない。

会 議  
内 容

【委員】 誤った知識のまま大人や親になり、子どもに伝えてしまう。正しく学び、子どもに伝える必要がある。

【委員】 小学校では、手上げ等の合図横断について取り組んでおり、ボランティアと安全教育を徹底していきたい。

【委員】 電柱幕にふりがなを記載してはどうか。子どもには、手を上げて渡るということが伝わるピクトグラム等を検討すればどうか。

【委員】 文字は少なく、ひらがなかカタカナ表記にすれば見やすい。

【委員】 運転中に電柱幕を見る余裕があるのか。

私は、運転中に標識は見るが、電柱幕を意識したことがない。

【委員】 運転中は自分から情報を探していくという意識を持てば、電柱幕も目にするのではないか。

【警察】 意識してみると気になってくることもある。未だに太秦警察署と表示された看板等が掲出されているものもあり、委員の中で気付かれた時は連絡してほしい。

【委員】 反射材で、警察官のシルエットになった電柱幕を見たことがある。効果的で抑止力があり、子どもにも分かりやすい。

【委員】 子どもは、学校などで学ぶ機会が多くある。問題はお年寄りだ。

半年で2回ヒヤリとしたことがあった。1つは横断歩道のないところでの横断、もう1つは、1回の青信号で渡り切れず、それでも車の死角に入りながらも渡り続けた人がいたことである。

特殊詐欺に加え、高齢者の体力に応じた交通安全の啓発活動も必要だと思う。

【委員】 電柱に電柱幕を掲出しても違反にならないのか。

【警察】 京都府屋外広告物条例や京都市景観条例を踏まえ、法に則った手続きにより、行っている。

【委員】 委員は、効果的な電柱幕を見つけるということを宿題とし、次回の協議会で披露するというのはどうか。

【委員】 やりましょう。役に立ちたい。

【警察】 よろしく願います。

【委員】 様々な意見が出たが、まとめとしては、

関係機関と連携した児童虐待対策  
を答申とする。

5 事務連絡

令和4年度第3回目の協議会については、令和4年12月頃開催予定とする。

以上

## 第2回京都府右京警察署協議会の開催状況

